

第4部 障害の特性に応じた指導の充実 ～自閉症の指導～

1 自閉症とは

自閉症は、平成17年4月に施行された発達障害者支援法において発達障害の一つとして規定されており、次のような特徴がみられます。

- 人への反応やかかわりの乏しさなど、社会的関係の形成に特有の困難さが見られる。
- 言葉の発達に遅れや問題がある。
- 興味や関心が狭く、特定のものにこだわる。
- 以上の諸特徴が、遅くとも3歳までに現れる。

また、アメリカ精神医学会のDSM-IVには、自閉症の診断基準が次のように示されています。

広汎性発達障害 Pervasive Developmental Disorders

自閉性障害 Autistic Disorder

- A. (1), (2), (3)から合計6つ(またはそれ以上)、うち少なくとも(1)から2つ、(2)と(3)から1つずつの項目を含む。
- (1) 対人的相互反応における質的な障害で以下の少なくとも2つによって明らかになる：
- (a) 目と目で見つめ合う、顔の表情、体の姿勢、身振りなど、対人的相互反応を調節する多彩な非言語性行動の使用の著明な障害。
 - (b) 発達水準に相応した仲間関係をつくることの失敗。
 - (c) 楽しみ、興味、成し遂げたものを他人と共有すること(例：興味のあるものを見せる、もって来る、指さす)を自発的に求めることの欠如。
 - (d) 対人的または情緒的相互性の欠如。
- (2) 以下のうち少なくとも1つによって示される意志伝達の質的な障害：
- (a) 話し言葉の発達の遅れまたは完全な欠如(身振りや物まねのような代替りの意志伝達の仕方により補おうという努力を伴わない)。
 - (b) 十分会話のある者では、他人と会話を開始し継続する能力の著明な障害。
 - (c) 常同的で反復的な言葉の使用または独特な言語。
 - (d) 発達水準に相応した、変化に富んだ自発的なごっこ遊びや社会性を持った物まね遊びの欠如。
- (3) 行動、興味および活動の限定され、反復的で常同的な様式で、以下の少なくとも1つによって明らかになる：
- (a) 強度または対象において異常なほど、常同的で限定された型の、1つまたはいくつかの興味だけに熱中すること。
 - (b) 特定の、機能的でない習慣や儀式にかたくなにこだわるのが明らかである。
 - (c) 常同的で反復的な衝動的運動(例えば、手や指をばたばたさせたりねじ曲げる、または複雑な全身の動き)。
 - (d) 物体の一部に持続的に熱中する。
- B. 3歳以前に始まる、以下の領域の少なくとも1つにおける機能の遅れまたは異常：(1) 対人的相互作用、(2) 対人的意志伝達に用いられる言語、または(3) 象徴的または想像的遊び。
- C. この障害はレット障害または小児期崩壊性障害ではうまく説明されない。

【引用】高橋三郎・大野裕・染矢俊幸(訳)「DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引」医学書院、1995, pp. 49-51

自閉症の特徴や自閉症の診断基準からも明らかなように、自閉症は「自閉」という言葉からイメージしやすい「自ら閉じこもっている」状態ではありません。また、自閉症の原因は養育の問題によるものでもなく、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。日本自閉症協会が平成16年に実施した自閉症者に対する意識調査によると、約3割の回答者が、自閉症の原因を「心の病」「遺伝的疾患」「親の育て方」であるという誤った認識をもっていることが明らかになっています。(注1)

なお、自閉症の状態像は多様です。知的障害を伴う場合は、自閉症の障害特性の現れ方に加え、知的障害の程度によっても状態像は変わってきます。

(注1) 社団法人日本自閉症協会「自閉症者に対する意識調査 一般社会の人たちに対する3000人アンケート調査」, 2005

2 自閉症の障害特性と支援のポイント

(1) 社会的関係の形成(人とのかかわり)の困難さ



- 視線を合わせること、顔の表情をつくること、身振りで伝えることなどがむずかしいことが多い。
- 発達や年齢に相応した仲間関係をつくるのがむずかしい。特に、年少の頃は、他者からの接近を避けたり、一人でいたがったりすることが多い。
- 集団遊びやゲームに参加するよりも、一人遊びを好むことが多い。
- 他人とかかわっているというよりも、他人を物や道具として扱っているようだ。

支援のポイント

- 大人との活動や少人数の子どもと関わっていく活動から徐々に人とのかかわりを広げていきましょう。
- 本人が好んだり、生活上必然性のある活動や遊びの機会を利用しましょう。



(2) 言葉の発達の遅れや問題（コミュニケーションの困難さ）



- 話し言葉の発達に遅れが見られることが多い。
- 話し言葉を補うために、身振りなどで伝えようとする
ことが少ないようだ。
- 会話をする際に、特定の単語やフレーズを繰り返したり、
音程・抑揚・速さ・リズム・アクセントなどがぎこち
なかつたりする。

支援のポイント

- 個に応じたコミュニケーション手段（絵カード、文字カ
ード、コミュニケーションボードなど）を選択しましょう。
- 不適切な表現（自傷、他者への攻撃、かんしゃくなど）
は、その原因を突き止め、その気持ちを表現する別の手
段に代替するようにしましょう。



(3) 興味や関心が狭く、特定のものにこだわる



- 日付、電話番号、時刻表、商標などの限られた物に興
味を持ち続けることがある。
- 物の配置換えや環境の変化に強い不安を示すことが
ある。
- 特定の習慣（例えば、毎日同じ道順で学校に行く）や儀
式的なふるまいをすることがある。
- 手をパタパタさせたり、紐を振ったりするなどの常同的
で反復的な動きを周囲の状況に関係なく行うことがある。
- 物の一部（例えばボタン）に対して持続的に熱中した
り、動く物（例えば回転する物）に強い興味を示したり
することがある。

支援のポイント

- 分かりやすいスケジュールや納得できる交換条件（例
えば、「〇〇が終わったら、〇〇してもいい」など）を
提示してルールを取り決め、徐々に行動する時間と場所
を自律的に決めることができるようにしましょう。



(4) 感覚の過敏等があること

空調機器の音や銀紙，セロファン等の光るものに強い興味を示す反面，特定の音や人の声に極端な恐怖を示したり，ガラスを爪で引っ掻いたような音には平気だったりすることがあります。

このように，個人差はありますが，視覚，聴覚，触覚，味覚，臭覚などの感覚の過敏あるいは鈍感が多くの子閉症の子どもに見られます。

また，姿勢をコントロールすることに意識が集中し，その他の働きかけには注意を向けられないなど，種々の感覚を同時に処理することが苦手です。これは，「シングルフォーカス」と言われ，二つ以上のことに同時に注意を向けることに困難がある状態です。

マッチングの学習の時に，「形」「色」の二つの属性で考えなければならない場面で混乱してしまうことなどがありますが，これは，二つの情報を同時に処理することが困難なために起こっていると考えられます。

指導を行う際に生じやすい誤解とその対応方法

- 以前はできていたのに，今はしようとしなない。
- 今，しようとしなない原因に「こだわり」はないかどうか考えてみましょう。

- 周囲は何も関わっていないのに，突然怒り出す。
- 怒り出した原因に「こだわり」や「感覚の過敏等」はないかどうか考えてみましょう。

- 前回質問したら正しい答えが返ってきたのに，今回はこちらの言葉を繰り返す。
- 今回の質問の内容や言葉の意味は理解できているのかどうか考えてみましょう。

- 視線を合わせにくいのは自閉症の特性であるが，視線を合わせて話すことは社会のマナーである。
- 行動や生活のパターンを無理強いしないようにしましょう。



3 支援の工夫

自閉症の障害特性に応じた指導を行うには視覚的支援が効果的です。また、自ら判断して適切に行動することができるようにするための工夫、話すことが困難な幼児児童生徒に対しては意思を伝えやすくなるような工夫が必要です。

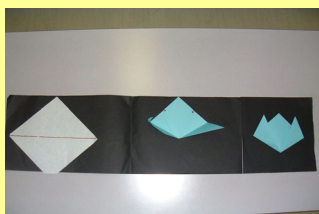
(1) 視覚的支援の工夫



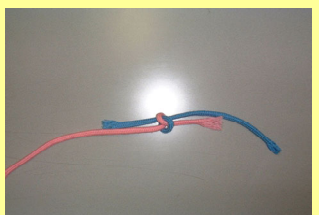
調理実習などで、豆腐を切る際の補助具です。透明なシートに点線を書いておきます。その点線に沿って包丁を下ろすことで、豆腐を均等な大きさに切ることができます。



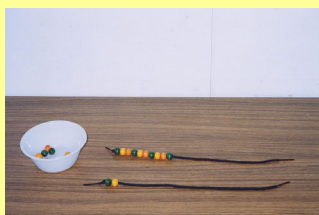
調理実習などで、包丁を置く際の補助具です。画用紙に書いた包丁の絵を調理台に貼ることで、刃を向こう側に向けて安全に置くことができます。



折り紙を折る手順を示したものです。教師が、その都度折った折り紙を伸ばして教えるのではなく、自分でモデルを見ながら同じ形に折ることができます。

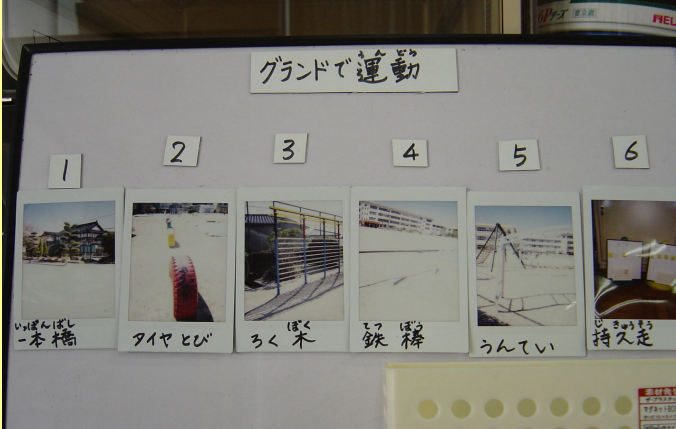


紐の結び方を練習するための工夫です。色が違う紐を使うことにより、紐が交差しても両方の紐の違いを意識しながら練習することができます。



紐にビーズを通す練習の課題提示の方法です。完成品のモデルを向こう側に置いておくことで、その都度教師が指示を出さなくても、自らモデルを見ながら課題に取り組むことができます。

(2) 活動の見通しがもてるような工夫



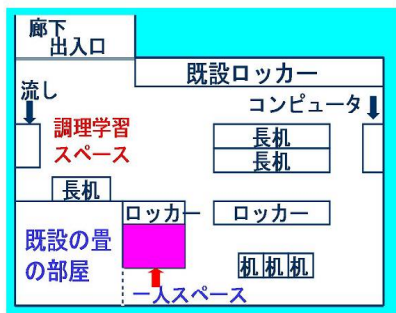
グラウンドで行う運動の写真カードを小さなマグネットボードに並べたものです。マグネットボードをグラウンドに持って行くことで、次に行う活動をその都度確認することができます。



透明なボックスのそれぞれの引出しに個別課題を入れておくものです。上から順に課題を行っていくことで、終わりが明確になり、課題に取り組みやすくなります。



調理実習の手順を写真カードで示したものです。児童生徒の実態に応じて、写真だけのカードや文字入りのカードにするなどの工夫が必要です。

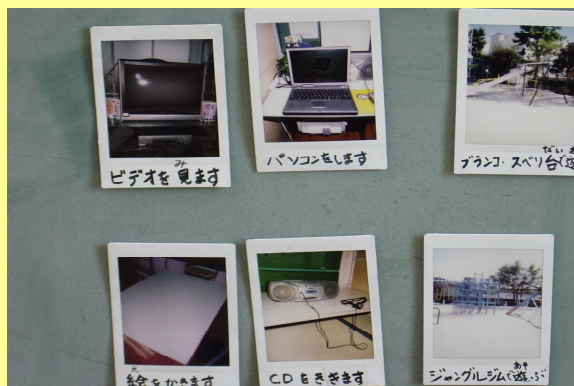


教室内の配置を示したものです。活動を行う場所を明確にしておくことで、スムーズに学習に臨めるようになる場合が多いようです。

(3) 意思を伝えやすくなるような工夫



困った時に触ったり、教師に提示したりすることにより、援助を求めることができるよう工夫したものです。



昼休憩などに児童生徒が遊びたい場所を教師に伝えたり、教師から提示したりすることによりコミュニケーションを円滑に行うことができるよう工夫した写真カードです。



前もって録音しておいた音声が入るスイッチを押すことにより流れるものです。例えば、朝の会の司会のことばを順に録音しておくことで、スイッチを1回1回押すことにより、司会を行うことができます。このような支援機器を幼児児童生徒の実態に応じて選択し活用すると効果的です。